

## 秘書検定と日本語検定を通して学んだこと

～「秘書実務士成績優秀者賞」を受賞した高尾朱里さん～

静岡英和学院大学

人間社会学部 人間社会学科

4年 高尾 朱里



秘書サービス接遇教育学会の「秘書実務士」の成績優秀者として、静岡英和学院大学人間社会学部人間社会学科4年の高尾朱里さんが受賞されました。日本語検定委員会（以下 当法人）は、秘書検定2級以上と日本語検定3級以上に合格して当法人の面接試験に合格した方を「秘書実務士」として秘書サービス接遇教育学会に申請しています。高尾さんは、秘書検定2級と日本語検定3級に合格し、当法人の面接試験を優秀な成績で合格されました。高尾さんにお話を伺いました。

◆この度は、「秘書実務士成績優秀者賞」を受賞され、本当におめでとうございます。早速ですが、秘書検定を受験した理由をお聞かせください。

大学1年時の講義で、先生が秘書検定についてお話されるのを聞いて、初めて知りました。最初は、受験してみようかなと軽い気持ちでした。まずは、3級から受験し、なんとか取得することができました。その後に2級を受験したのですが、あと一步のところまで合格に至りませんでした。あと一つか二つできていれば合格できていたのだと思います。それが私のなかでとても悔しくて、絶対受かってみせると心に誓いました。2級に何度も挑戦して、やっとの思いで、昨年11月に合格することができました。

◆秘書検定2級に合格してから日本語検定を受検されたと伺っていますが、なぜ、日本語検定を受検しようと思われたのですか。

日本語検定を受検しようと思ったのは、友人から「秘書検定2級以上で、日本語検定3級以上に合格していれば、秘書実務士の資格が取れる」ということを聞いたことがきっかけでした。それと、自分自身の日本語力を知りたかったということもありました。今回受検したのは日本語検定3級ですが、秘書検定を先に勉強していたことが功を奏したのか、出題範囲が似ている領域もあり、勉強も苦ではありませんでした。

◆日本語検定3級は、当法人では「社会人基礎レベル」と捉えており、社会人として最低限、合格して欲しい級なのですが、1回で合格できたのは秘書検定で勉強したことが活かされたのですね。日本語検定を受検して良かったと感じたことを教えてください。

一点目として、自分の苦手な領域を知ることができたということです。「敬語」や「漢字」の分野は比較的理解していたものの、「言葉の意味」など、理解できていなかった領域も目立ちました。改めて、日本語は難しいということが身に染みました。

二点目として、先ほどの話と重複してしましますが、「秘書実務士」の資格を取得できたことです。最初は友人に勧められたのが受検した動機でしたが、日本語検定の勉強を続けられたのも、「秘書実務士」の資格を取

得するという目標があったからです。そして、その目標が達成できたのでとても嬉しいです。

◆今、目標の「秘書実務士」の資格を取得してから、何か気づいたことなどはございますか。

普段、私が何気なく使っていた言葉が、本来の言葉とはかけ離れていたということが身に染みてわかりました。秘書検定と日本語検定の勉強をしていく中で、自分が言葉を間違えて使っていたり、自分では正しいと思っていた言葉も他の人には伝わらなったり、日本語の難しさを知りました。秘書実務士となり、本当の日本語の使い方を知ったうえで、それが、目上の人に対する話し方や電話応対など、普段の生活に活かしていければと思っています。

◆それでは最後にお伺いします。来年から社会人ですが、是非、社会に出てからの豊富をお聞かせください。

来年で、私も社会人の一員となります。いかに他者のことを気遣い、尊重できるかが伴われると思います。その中で、礼儀やマナーなど、社会人にとって当たり前が出来ない人にはなりたくありません。会社にとって、言葉一つ、対応一つで、信頼がなくなってしまうかもしれません。そのようなことが起こらないように、礼儀やマナーに気を付けるようにしていきたいと考えています。

秘書実務士を受験したのは、本当に些細なことがきっかけでした。途中で挫折しそうにもなりましたが、諦めず続けたことで資格を取得することができ、努力し続けることの大切さを学びました。社会に出てからも、何事にも挑戦してみるという気持ちを忘れず、働いていきたいと思っています。不安なことだらけですが、頑張っていきたいと思っています。

◆高尾さん、今日は貴重なお話をありがとうございました。社会人としてのご活躍を心からお祈りしております。